

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和元年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第11号（2月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401

南さつま市金峰町大野 2200

TEL 099-245-1081（代表）

099-245-1157（直通）

099-245-1149（FAX）

テレホンサービス

鹿児島 099-296-6430

296-6431

ホームページアドレス：<http://www.jppn.ne.jp/kagoshima>



メールアドレス：nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp

農薬の安全使用に努めましょう

農薬安全使用五つの柱

1. 使用する人の安全 使用者自身の健康管理，安全使用
2. 作物に対する安全 適期，適正防除で薬害防止
3. 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給
(農薬安全使用基準の遵守)
4. 環境に対する安全 周辺環境への影響防止
(周辺住民等への危被害防止)
(河川，湖沼，海などへの汚染防止)
(養蚕，養蜂などへの危被害防止)
5. 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

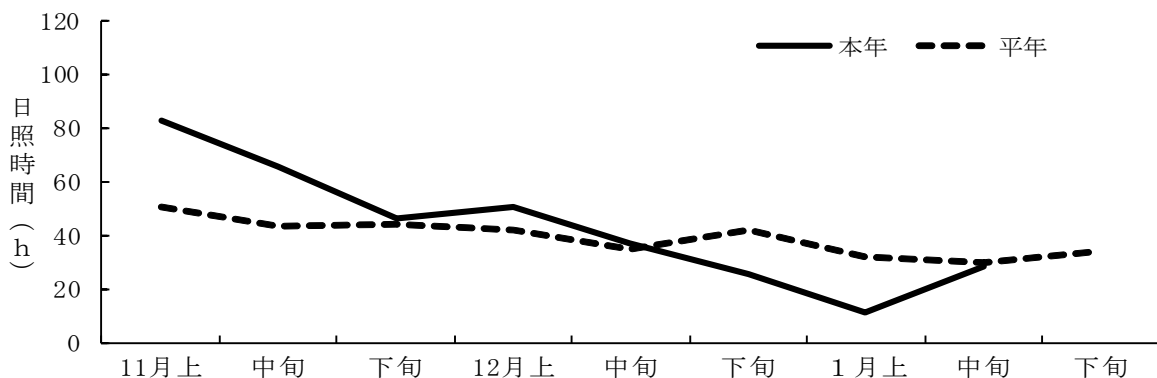
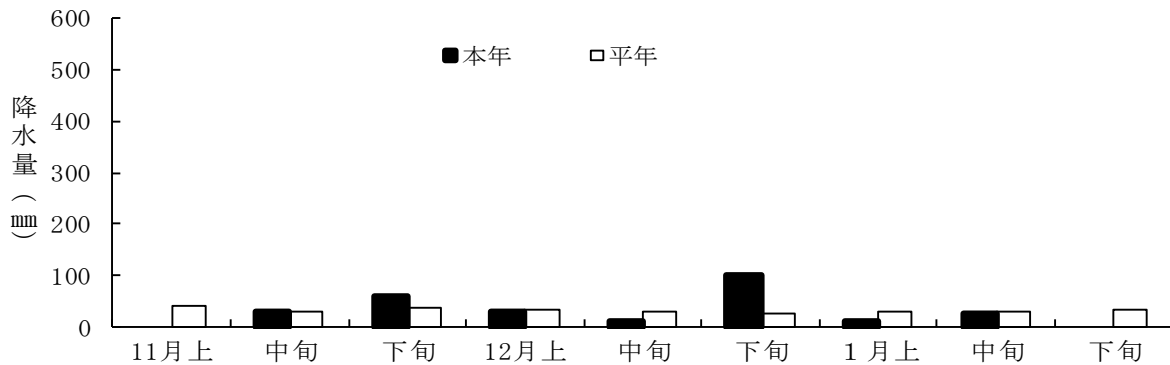
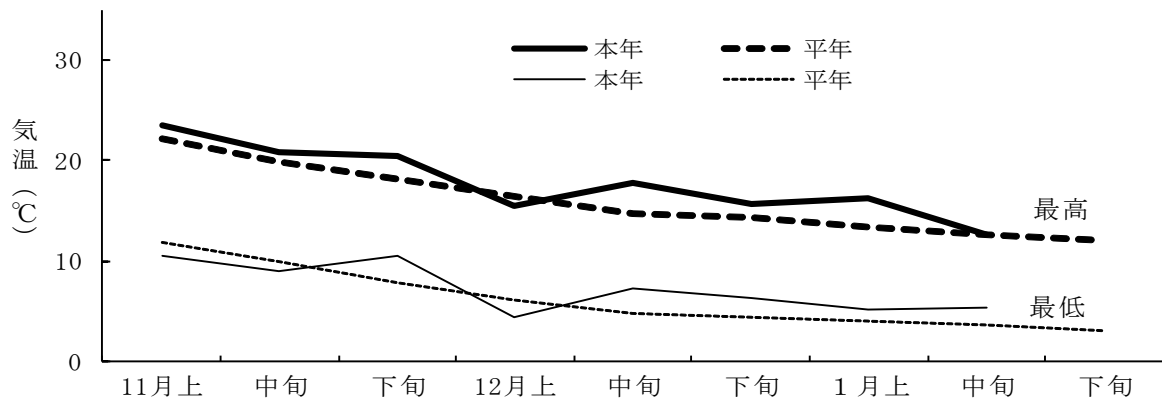
農薬ラベルを確認しましょう。
農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう。

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（1月25日から2月24日） 令和2年1月23日 鹿児島地方气象台 発表

| 要素 | 地域 | 確率（％） | | | 概要 |
|------|------|---------|-----|--------|---|
| | | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) | |
| 気温 | 九州南部 | 10 | 20 | 70 | 九州南部の気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込み。奄美地域の気温は高く、降水量は平年並みか多く、日照時間は平年並みの見込み。 |
| | 奄美地方 | 10 | 30 | 60 | |
| 降水量 | 九州南部 | 10 | 30 | 60 | |
| | 奄美地方 | 20 | 40 | 40 | |
| 日照時間 | 九州南部 | 50 | 30 | 20 | |
| | 奄美地方 | 30 | 30 | 40 | |

II. 11～1月の気象情報（鹿児島地方气象台 観測点：加世田）



【病害虫発生予報の概要】

| 作物 | | 病害虫名 | 発生量 | |
|-------|-----------|----------------|-----|-----|
| | | | 現況 | 予報 |
| 野菜 | キュウリ | べと病 | 並 | 並 |
| | | 灰色かび病 | 並 | やや多 |
| | トマト | 疫病 | やや少 | 並 |
| | | うどんこ病 | 多 | 多 |
| | ピーマン | 斑点病 | 並 | 並 |
| | | タバココナジラミ | 多 | 多 |
| | イチゴ | ハダニ類 | 並 | 並 |
| | サヤインゲン | 灰色かび病 | 多 | 多 |
| | | タバココナジラミ | 並 | やや多 |
| | | ハモグリバエ類 | 多 | 多 |
| | 施設野菜共通 | 菌核病 | やや多 | やや多 |
| | キャベツ | 菌核病 | やや少 | 並 |
| | エンドウ類 | ハモグリバエ類 | 並 | 並 |
| | | アザミウマ類 | 多 | 多 |
| パレイショ | 疫病（熊毛地域） | 多 | 多 | |
| | 〃（奄美地域） | 多 | 多 | |
| | 軟腐病（奄美地域） | 多 | 多 | |
| 花き | キク | ハダニ類（県本土，施設） | 並 | 並 |
| | | アザミウマ類（県本土，施設） | 並 | 並 |
| | | 〃（奄美地域，露地） | 並 | 並 |

【 病 害 虫 発 生 予 報 】

I. 野 菜

1. キュウリ

(1) ベと病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

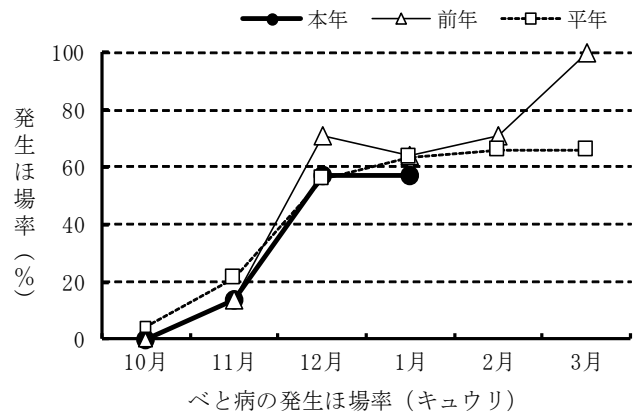
- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率57%（平年63%）：並

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウスの通風換気に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、伝染源となるためハウス外に持ち出して処分する。
- (ウ) 肥料切れや草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除に努める。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(2) 灰色かび病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率14%（平年6%）
：やや高い（+）

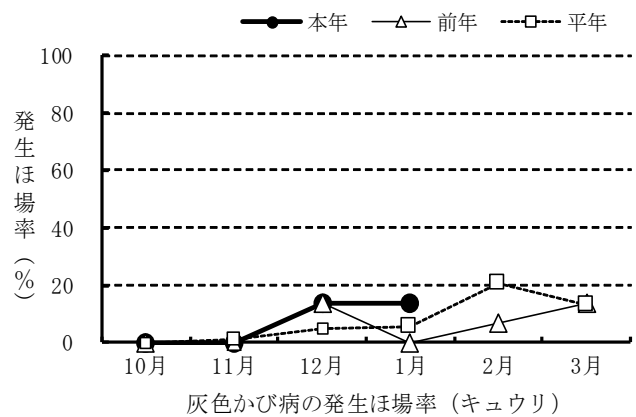
発生程度は低い（-）

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 過湿にならないようにハウス内の排水及び換気を十分に行う。
- (イ) 発病幼果，落花卉，不要花卉は努めて除去する。
- (ウ) 曇天でも，一層二層のビニールカーテンをできるだけ大きく開き除湿と日射量を多くする。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



2. トマト

(1) 疫病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率7% (平年18%)

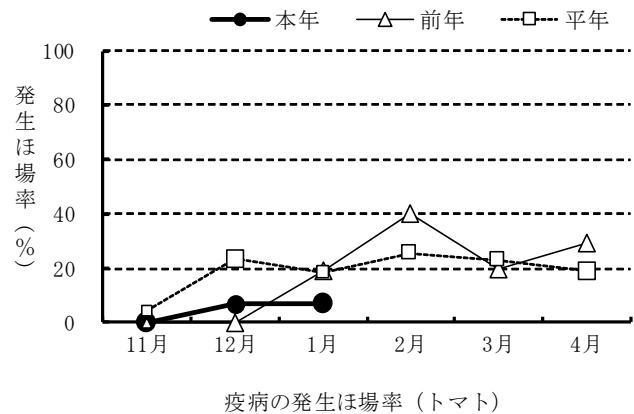
: やや低い (-)

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウスの通風換気を十分に行ない、過湿にならないよう努める。
- (イ) ハウス内の湿度が高く結露が多い場合は、強制的に加温を行い湿度低下を図る。
- (ウ) ハウスの谷部や北側等、結露し水滴の落ちやすいところで発生が多いので、早期発見に努め、早めに防除する。
- (エ) 発病すると急激にまん延しやすいので、発病茎葉は速やかにハウス外へ持ち出し、薬剤を散布する。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(2) うどんこ病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

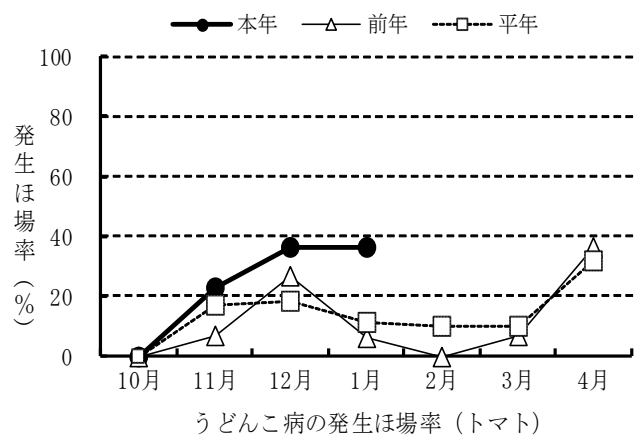
- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率36% (平年11%) : 高い (+)

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 気温が平年より高い状況が続くと予想されるため、通風採光をよくし、老化葉は努めて除去する。
- (イ) 多発すると防除が困難になるので、早めに防除する。
- (ウ) 薬剤は葉裏に十分かかるよう散布する。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



3. ピーマン

(1) 斑点病

ア 予報内容

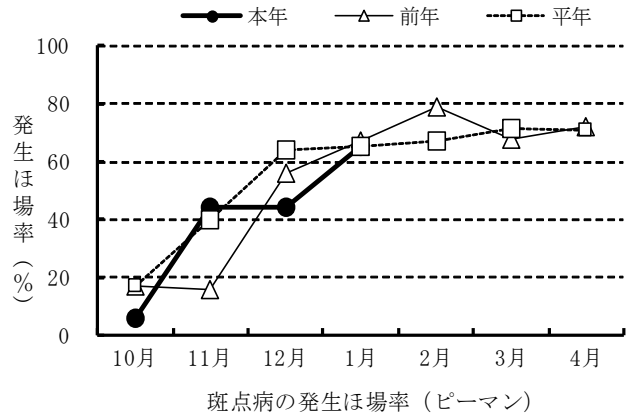
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率65%（平成65%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努める。
- (イ) 発病葉はできるだけ持ち出して処分し、菌密度の低下を図る。
- (ウ) 成り疲れなどによる草勢低下により発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(2) タバココナジラミ

ア 予報内容

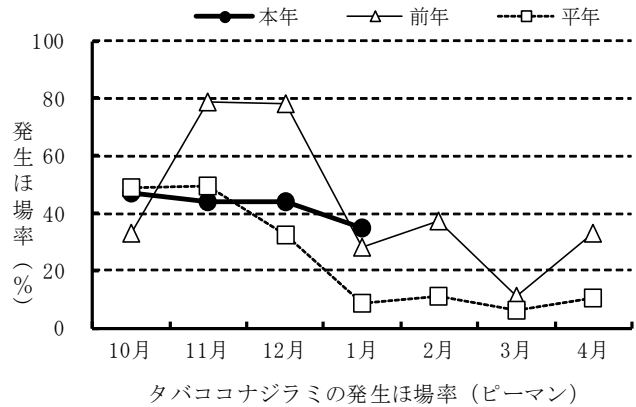
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率35%（平成9%）：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多発生すると茎葉や果実表面に排泄物が堆積し、すす病が発生して生育が衰え、果実が汚れる。
- (イ) ハウスの開口部には必ず防虫ネットを設置する。
- (ウ) 黄色粘着トラップを設置して早期発見・初期防除に努める。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



4. イチゴ

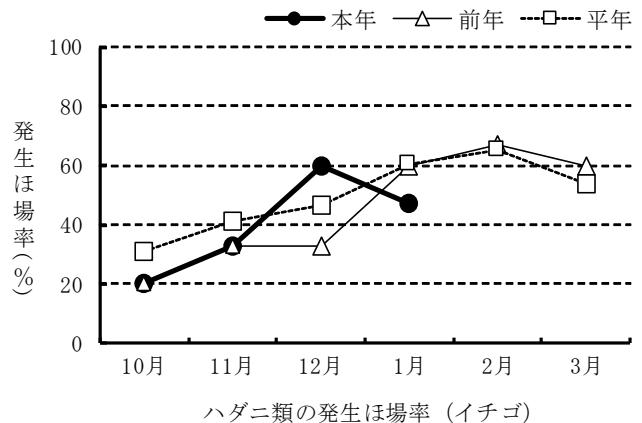
(1) ハダニ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率47%（平成61%）
：やや低い（-）
発生程度の高いほ場を認めた（+）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 下葉や寄生葉は摘葉し、ほ場外に持ち出し処分する。
- (イ) 薬剤の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。
- (ウ) 薬剤によっては感受性が低下しているため、散布後は防除効果を確認する。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- (オ) カブリダニ等の天敵を放飼した場合は、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。また、多発したほ場ではリセットを考慮した防除を行う。
- (カ) 薬剤によっては、ミツバチに影響があるので薬剤選定に注意する。

5. サヤインゲン

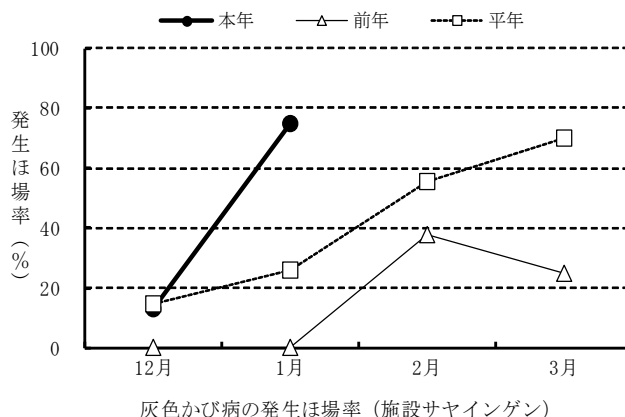
(1) 灰色かび病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率75%（平年26%）：高い（+）
- (イ) 気象予報
気温：高い（+）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 感染・発病に好適な条件が続くと予想されるため、枝葉間の通風採光の確保に留意し、ハウスの通風換気を十分に行ない、過湿にならないよう努める。
- (イ) 莢に残る花弁や葉上の落花弁は本病の発生源となるので、こまめに除去する。
- (ウ) 発病葉や発病莢はビニール袋等に入れてほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

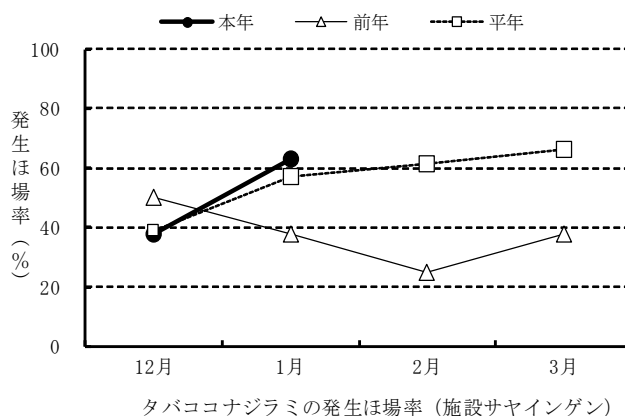
(2) タバココナジラミ

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率63%（平年57%）：並
- (イ) 気象予報
気温：高い（+）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 莢に白化症を生じるので、ハウス内の密度を上げないように早めに防除する。
- (イ) 多発してからの防除は困難なので、初期防除に努める。多発ほ場では5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(3) ハモグリバエ類

ア 予報内容

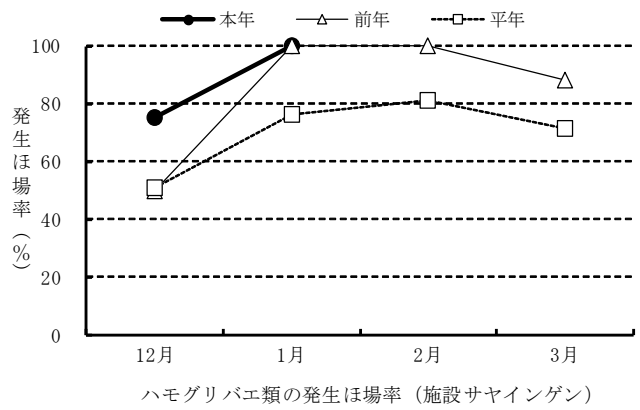
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率100%（平年76%）：高い（+）
- (イ) 気象予報
気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多発してからの防除は困難なので、初期防除に努める。多発ほ場では5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。
- (イ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



6. 施設野菜共通

(1) 菌核病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作物 キュウリ, メロン,
トマト, ミニトマト,
ピーマン, ナス, イチゴ,
サヤインゲン

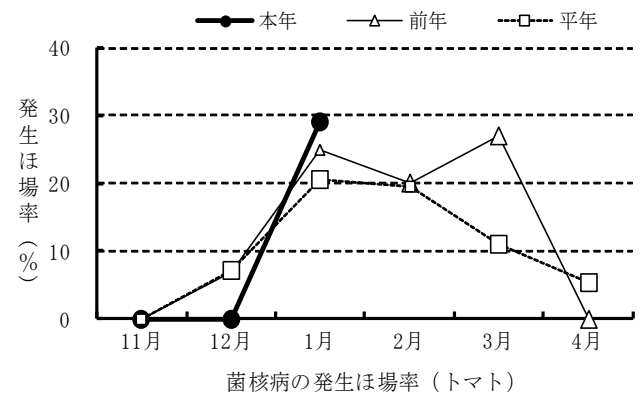
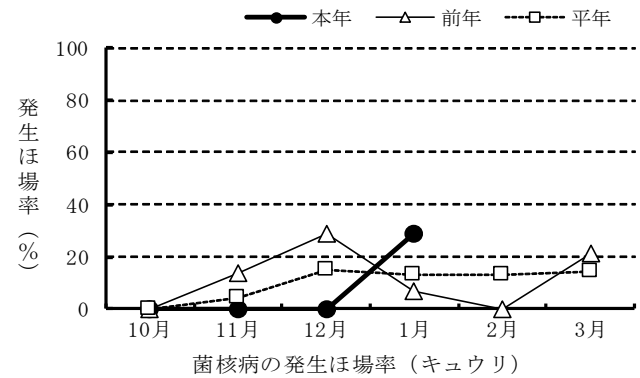
(ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率
キュウリ29%（平年13%）：やや高い（+）
トマト29%（平年19%）：やや高い（+）
サヤインゲン38%（平年34%）：並
- (イ) 気象予報
気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 17～20℃前後の多湿条件で発生しやすく、今後好適条件が続くことが予想されるため、発病に注意し予防散布に努める。
- (イ) 病原菌は地際部や枝分岐部付近から感染しやすいので、薬剤は対象部位へ十分かかるように散布する。
- (ウ) 発病部位から健全部へ菌糸によって被害が広がるので、発病葉、枝、果実（莢）などは見つけ次第取り除く。
- (エ) 発病株は周辺株や次作の伝染源となるので、菌核を生じないうちにほ場外に持ち出し処分する。
- (オ) 収穫終了後の残渣は適正に処分する。



7. キャベツ

(1) 菌核病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率17% (平年25%)

: やや低い (-)

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

降水量：多い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

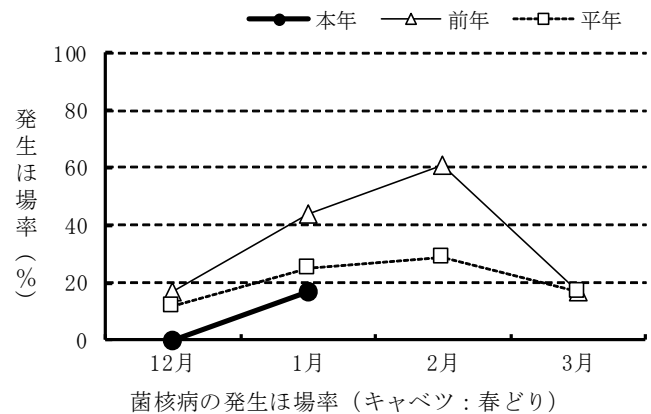
(ア) 多湿条件で発生しやすいので、天候に注意し、予防散布に努める。

(イ) 病原菌は地際部から感染しやすいので、薬剤は株元へ十分かかるように散布する。

(ウ) 発病部位から健全部へ菌糸によって被害が広がるので、発病葉は見つけ次第取り除く。

(エ) 発病株は周辺株や次作の伝染源となるので、菌核を生じないうちにほ場外に持ち出し処分する。

(オ) 収穫終了後の残渣は適正に処分する。特に発病残渣をほ場に残さない。



8. エンドウ類

(1) ハモグリバエ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率42% (平年38%) : 並

(イ) 気象予報

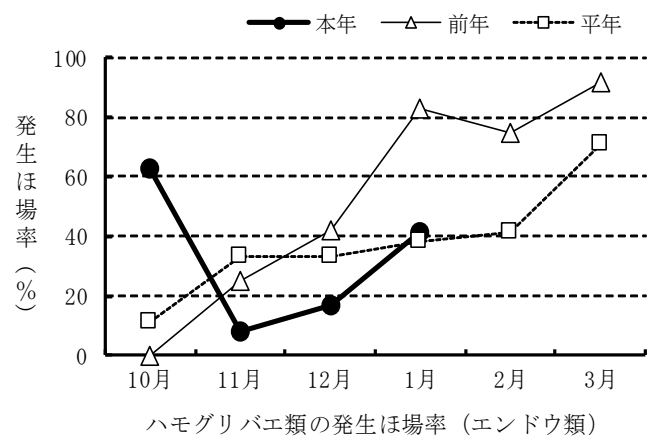
気温：高い (+)

降水量：多い (-)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 多発してからの防除は困難なので、初期防除に努める。多発ほ場では5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。

(イ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

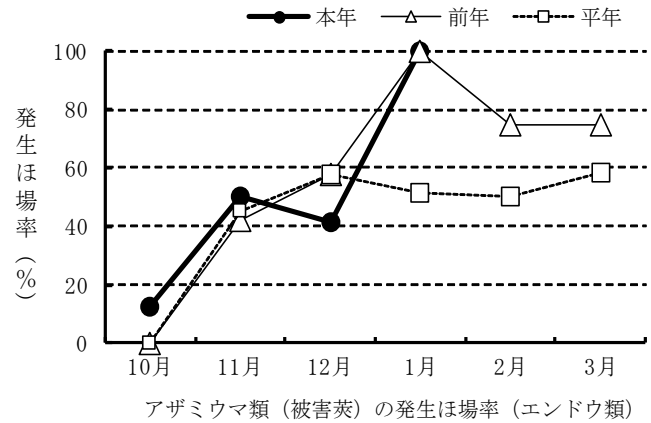
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率100% (平年51%)：高い(+)
- (イ) 気象予報
気温：高い(+)
降水量：多い(-)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) アザミウマ類は若莢に産卵し、「白ぶくれ莢」となるので、若莢の被害や青色粘着トラップへの誘殺から発生状況を把握し、早期防除に努める。
- (イ) 薬剤のかかりにくい花卉の奥や若莢に寄生するので、丁寧な薬剤散布に努める。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



9. バレイシヨ

(1) 疫病 (令和元年度技術情報第5号(1月29日付け)参照)

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 熊毛地域, 奄美地域
- (イ) 発生量 熊毛地域：多
奄美地域：多

イ 予報の根拠

<熊毛地域>

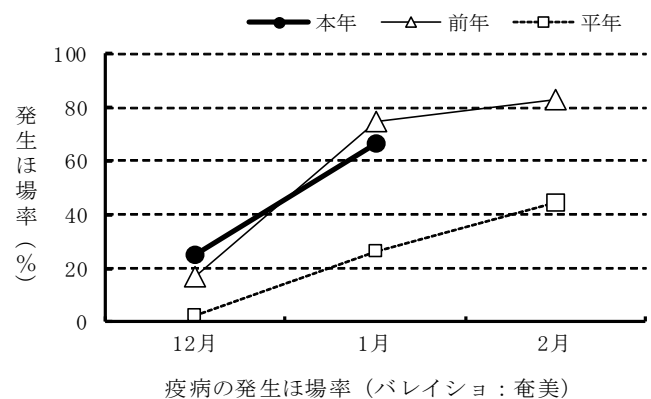
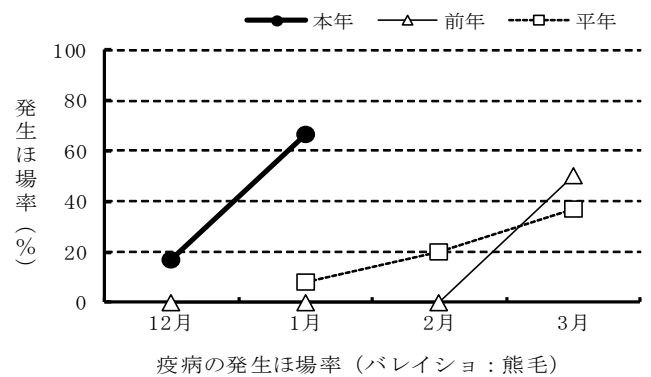
- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率67% (平年8%)：高い(+)
- (イ) 気象予報
気温：高い(+)
降水量：多い(+)

<奄美地域>

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率67% (平年26%)：高い(+)
- (イ) 気象予報
気温：高い(+)
降水量：平年並みか多い(+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 降雨が数日続いた場合や、土壌水分が高い場合に発生しやすく、発病後は急速に病勢が進展するので、防除は予防散布に重点をおき、適期を逃さないように注意する。
- (イ) ほ場の見回りを行い、発生が認められたら直ちに防除を行う。その後は、進展状況に応じて7~10日後に追加散布を行う。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- (エ) 収穫が遅れると被害拡大につながるため、適期収穫を行う。
- (オ) 発病株は次年度の伝染源となるため、ほ場外に持ち出し適正に処分する。



(2) 軟腐病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 奄美地域

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

発生ほ場率83% (平年7%)：高い(+)

(イ) 気象予報

気温：高い(+)

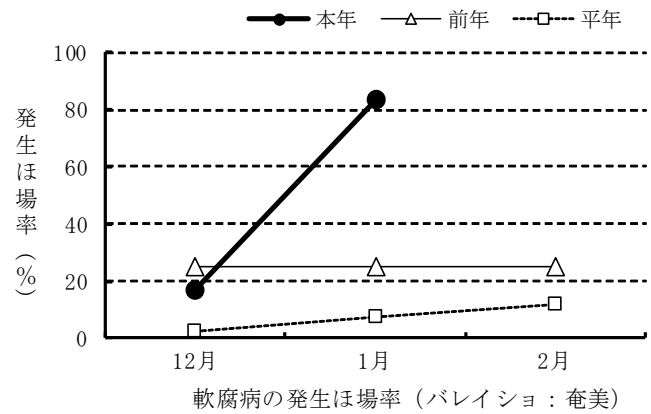
降水量：平年並みか多い(+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 土中で生存する病原細菌が茎葉、塊茎の傷口から侵入する。風傷み等付傷があり、高温多湿条件が続く場合は発病に注意し、早期防除に努める。

(イ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(ウ) 収穫終了後の残渣は適正に処分する。特にくずイモ等の発病残渣をほ場に残さない。



防除に関する今月の留意事項

1. キュウリの植え替え作業時におけるアザミウマ類の防除について

キュウリのミナミキイロアザミウマは黄化えそ病 (MYSV) の病原ウイルスを媒介する。

半促成作型での黄化えそ病の発生を未然に防ぐために、植え替え作業時における害虫防除を徹底する。

(1) 抑制作型は収穫終了までの確な害虫防除を行う。

(2) 収穫終了後は根を引き抜き株全体を枯死させる。

(3) 中二重と外張りの間や谷下、暖房機の下などに生えている雑草は、ミナミキイロアザミウマの増殖源になるので引き抜きや除草剤散布などの雑草対策を徹底する。

(4) 定植時は必ず薬剤処理を行う。

II. 花き (キク)

(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土 (施設)

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率31% (平年31%)：並

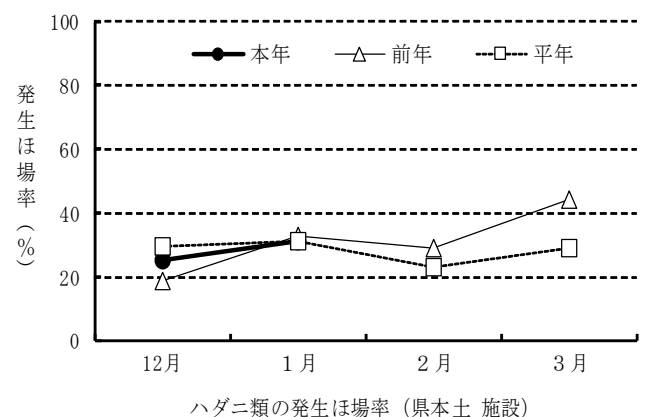
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生する場合は多いので、ほ場全体をよく見回り、早期発見と初期防除に努める。

(イ) ほ場内と周辺の雑草や収穫後の残さ等は早めに除去し、適正に処分する。

(ウ) 薬剤は葉裏までよくかかるように十分量を散布する。

(エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土(施設) 並

奄美地域(露地) 並

イ 予報の根拠

<県本土(施設)>

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率19% (平年28%)：並

<奄美地域(露地)>

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率60% (平年46%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類はキクえそ病(TSWV),
キク茎えそ病(CSNV)を媒介するの
で, ほ場への侵入防止と早期発見およ
び初期防除に努める。

(イ) 母株や苗の導入に際しては, アザミウマ類の寄生やウィルス感染に細心の注意を払う。

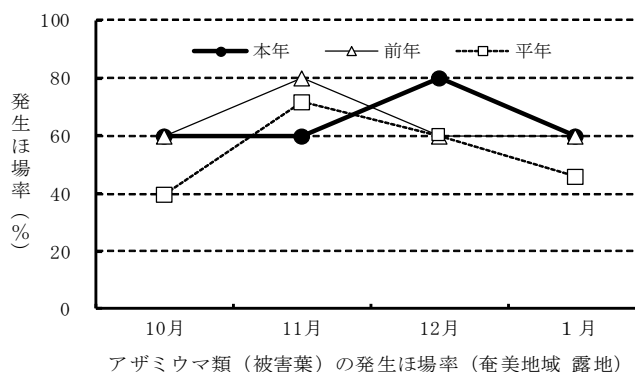
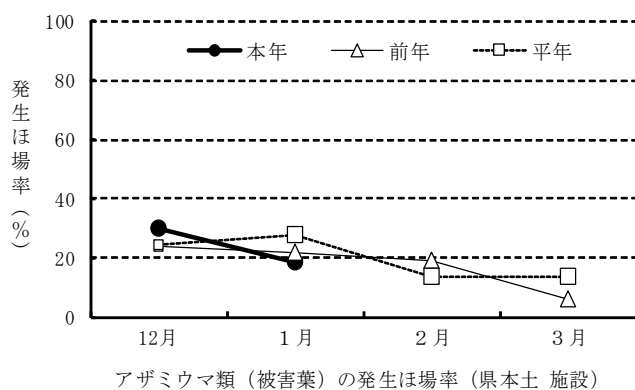
(ウ) 施設では開口部に目合い0.6mm以下の防虫ネットを張る。発生動向を把握するためには出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。

(エ) 除草等の環境整備を行うとともに, 母株の防除を徹底する。

(オ) 同一系統薬剤の連用を避け, 作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(カ) クロゲハナアザミウマは中下位葉にも寄生しているため, 薬剤は下葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

(キ) 栽培終了後は, 速やかに残渣を処分する。



農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋など）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. **散布時には薬剤がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。**
6. **クロルピクリン剤は、住宅地および畜舎に隣接するほ場や、無風の時、土壤が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。**
7. ランネート剤は毒性が強いので、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬および使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等を総合的に基づいた総合評価。
- 発生ほ場率と調査場所を記載しない発生数・発生率は、巡回調査の結果。
- 果樹と茶樹の定点防除園又は無防除園は、果樹部と茶業部での調査結果。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（＋）、（－）は、発生量の増加、減少要因を示す。
- 気象予報は、向こう1か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去10年間の平年を用い、本年調査値の後に（平年○○）で表記する。ただし、過去3年間の平均値を用いた場合は（過去3年○○）と表記する。